

# 福島第一原子力発電所 1号機 オペフロ南東側他の調査結果について



東京電力ホールディングス株式会社

2016.05.26

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

## 1. 調査目的



### ■ 調査目的

#### ＜ガレキ状況先行調査＞

- ガレキ撤去計画の策定に向け、崩落屋根下の状況を把握する必要があるが、北側は崩落屋根下とオペレーティングフロア間にポールカメラを挿入できるスペースがほとんどないため、状況が確認できていない
- 崩落屋根下のガレキ状況調査のために準備した、調査手法・調査装置が適用できるか実機で確認する
- 本試験結果に基づき、今後の崩落屋根下のガレキ調査計画を立案する

#### ＜オペフロ南東部調査＞

- 使用済燃料プール(SFP)養生方法を検討するため、これまで建屋東側からポールカメラを挿入し、天井クレーンや燃料交換機(FHM)の状況等を確認してきた。今回は前回調査(H27.7月～12月)で東面南側端部にもポールを挿入できる空間を確認したことから、建屋カバーの壁パネル解体前に当該部の調査を行う。

また、南西側は建屋カバーと既存原子炉建屋との間隙が狭く、ポールカメラ(長さ約6.5m/幅約1.5m)を吊り下ろせない(図1参照)ことから、壁パネル取り外し後にオペフロ南西部調査(図2参照)を計画する。

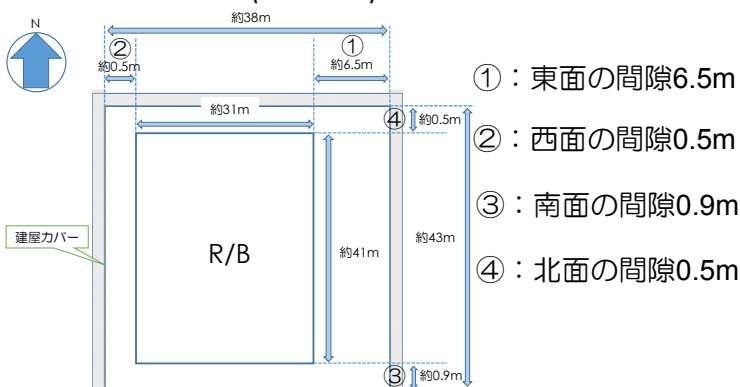


図1 建屋カバーと既存原子炉建屋の間隙

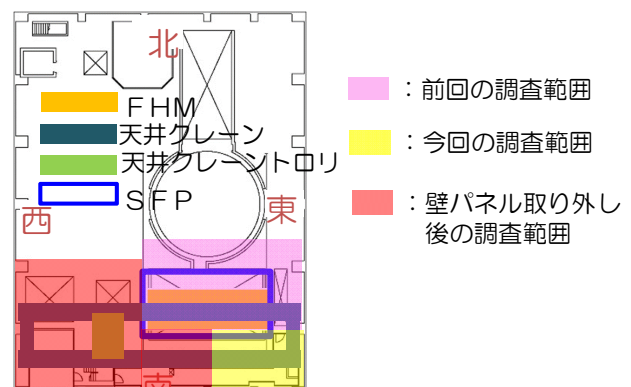


図2 ポールカメラ調査範囲

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

## 2. ガレキ状況先行調査結果

- 3/28～4/7にかけ、ガレキ状況先行調査を実施。
- 崩落屋根スラブの隙間に能動スコープを挿入し、南側のガレキ状況を確認した。(A～C部)
- また、オペフロ北側の崩落スラブコンクリートをコア抜きし、能動スコープカメラを挿入し、今後の本格調査への適用性を確認した。(D部)



©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

2

## 2. オペフロ南東部調査結果

- 4/26, 4/27にかけ、SFP南側およびSFP南東側へボールカメラを挿入しガレキ状況調査を実施
- 何れの状況も、直ちにSFP並びにSFP冷却系統に影響を与える状況にはないことを確認

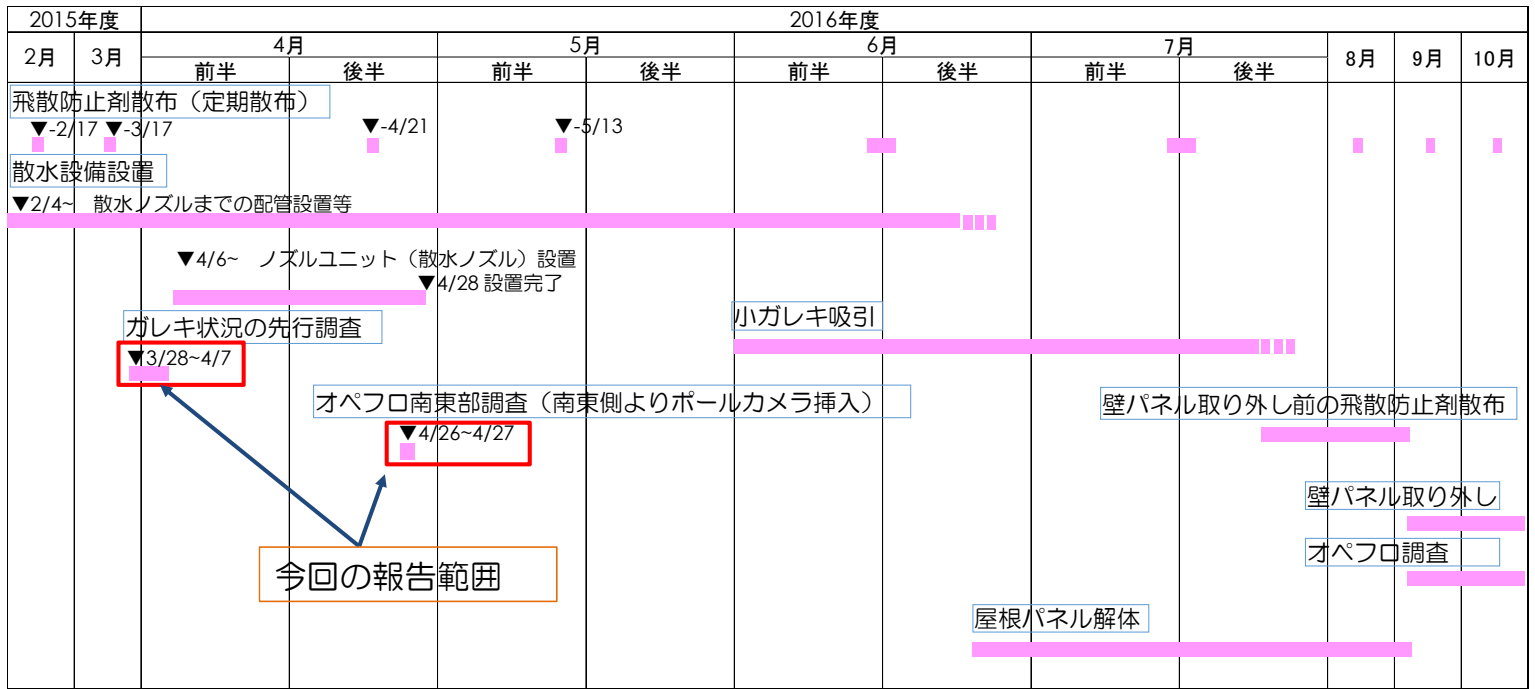


©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

3

# <参考> 至近の建屋カバー解体スケジュール



- 今後、壁パネル取外しの進捗にあわせて、オペフロ調査（「崩落屋根下のガレキ状況調査」「オペフロ南西部調査」）を実施し、ガレキ撤去計画の策定を進めていく